

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年12月2日(金)

その1 通算282号

◇ やるじゃん！ 3年生

後期から委員会活動に加わった3年生。学校の力として頑張る姿が素晴らしい。
想定を上回る勢いで伸びており、心強い限りだ。

3年生は5名とコンパクト。そして仲がよい。



理科



特別活動



英語活動

クローバー学習では、他の学年が2チームや3チームに分かれて学習を行うのに対し、3年生はいつもワンチーム。しかも「協力&強カワンチーム」である。となると、それぞれが学級を離れた時、5人がいつものワンチームから離れた時が、彼ら5人の「ターニングポイント」でもある。委員会の数は5つに対し、3年生は5人。つまり、3年生ワンチームの完全解体。「委員会活動」は、3年生の「ターニングポイント」でもあった。

半年間ですっかり中学年のポジションを認識し、1・2年生の手本となることを意識的に行える3年生ではあるが、委員会活動では少しニュアンスが異なる。

委員会の中では、3年生が「最も学年が下のポジション」であるということだ。ここで上学年に甘えたり、遠慮したりしてしまうと、せっかく3年生が「高め、醸成してきた力」が萎んでしまうこともある。だからターニングポイントなのだ。

ところが3年生は違った。

後期からの途中参加というハンデにもめげず、それぞれが所属する委員会で大活躍している。

3年生の委員会活動への積極的な参加は上学年の大きな刺激となり、活動の更なる活性化にもつながっている。



緑化・美化委員会

3年生が頑張れる鍵は「三つ」と「+ α」。

まずは「+ α」の部分。【「心構え」をつくる仕向け】だ。

3年生を委員会活動に参加させることに決めたのは1学期半ば。当初は3年生参加を「委員会活動を知るお試し期間」と捉え、代表委員会→図書委員会→……のように5つの委員会を順番に参加させて、4年生以降の本格的開始に備えようとした。最終的に方向を決定したのは通常参加だが、これは担任の柴田先生の申し出によるもの。つまり、「学校生活の中で子供たちに委員会活動に目を向けさせ、委員会開始までの間に委員会を知る」仕向けを、柴田先生がさりげなく行ったということだ。子供たちをよく知る担任ならではの仕向けは、効果てきめんだ。

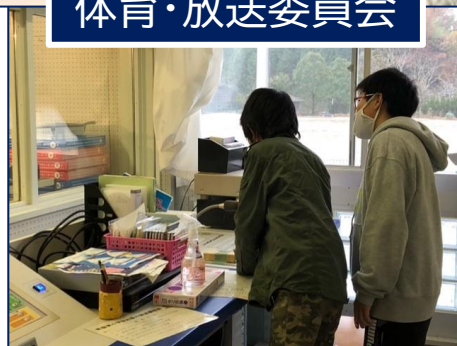
委員会活動がある程度把握し、さらに「委員会に臨む心構え」をつくった子供たちは、活動意欲を高めた状態で後期からの委員会に臨むことができた。



体育・放送委員会

そして鍵の一つ目は、【先輩の支援】だ。

いうまでもなく、4年生以上の上級生が活動の様子を新入りの3年生に示していることにある。つまり【お手本】だ。活動内容もちろんだが、活動に取り組む「真剣で献身的な姿勢」は、3年生にとって何よりのお手本であり、目指すべき到達点なのである。



鍵の二つ目は、【3年生が養ってきた持ち味】である。

手本が示されることで、3年生は見通しがもてる。つまり、「こうすればいいんだ」という正解があることは、活動に対する不安を消す。3年生の持ち味はここからで、「積極的に行動に移すこと」にある。遠慮せず、思い切って活動できる3年生の持ち味は、2年半をかけて養ってきた逞しい生きる力である。



代表委員会・募金活動

鍵の3つ目は【成功体験による達成感】である。

保健給食委員会の常時活動の一つに「昼放送での給食紹介」がある。後期はすでに3年生のKさんも参加。そして、Kさんの給食紹介の原稿読みが実によい。

陰には委員会担当の岡田先生の支援はあるものの、回を追って上達するKさんの活動を支えているのは、何と云っても「成功体験」と「達成感」の積み重ねであろう。芽生えた自信が更なるやる気を生み、やる気が工夫をもたらすのだ。

力をつけた3年生。上級生から学んでさらに伸び、下級生を導いてゆくだらう。